

第4回 見附市立学校配置等検討委員会

～少子化時代における目指すべき教育環境～

見附市教育委員会

2024.9.27

見附市立学校配置等検討委員会設置の背景

加速する少子化にともなう課題解決に向けて

背景

少子化に伴う級数や児童生徒数の減少、施設の老朽化

令和6年度

「市立学校配置等検討委員会」を設置し、
子どもたちにとって目指すべき教育環境の検討を諮問



「見附市における市立小中学校の適正規模・適正配置
等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実
現に向けた方策」について教育委員会に答申する

学級数・児童生徒数が少なくなることの課題

(1) 児童生徒への影響

- ・社会性やコミュニケーション能力が身につけにくい
- ・集団の中で自己主張をしたり、他者を尊重する経験を積みにくい
- ・協働的な学びの実現が困難
- ・切磋琢磨する環境の中で意欲や成長が引き出されにくい
- ・教員への依存心が強まる可能性がある

(2) 学校運営上の問題が顕在化

- ・クラス替えできず人間関係が固定化、男女の偏りが生じる
- ・運動会、遠足、修学旅行等の集団行事の実施に制約
- ・スポーツ実技や合唱・合奏などが困難
- ・授業で多様なものの考えを引き出しにくい
- ・配置される教職員が少なく業務が増す
- ・中学校は免許外指導（専門科目以外）の教科がでる

3/8

施設の老朽化による課題

(1) 維持修繕費の増大

- ・施設老朽化が進み維持修繕費が増加
- ・時代に合わせた施設管理（耐震化・バリアフリー化）が必要
- ・環境変化に対応した施設管理（冷房・換気設備・LED化）が必要
- ・プール施設の大規模修繕は実施しない

(2) 市財政への影響

- ・市が保有する建物の延床面積の半数近くは学校施設（約45.1%）
- ・名木野小長寿命改良工事は約19.4億円（予算額）
- ・市の中長期財政計画では令和12年度に財政調整基金がなくなる見込み

4/8

前回の委員会までの意見など

■ 集約

- ・ 施設の共同化、有効利用
- ・ 児童生徒増による教員増で先生の負担が軽減することで教育環境が改善
- ・ 学区の見直し、弾力的運用
- ・ 中学校の教育の質の確保、切磋琢磨する環境の必要性
- ・ ひとつになることで新たな取り組み、多様性

■ 子ども政策の充実

- ・ 子ども政策の充実により子育て世帯増につなげる
- ・ 移動手段の確保

■ 地域の特性をいかした教育

- ・ 小規模校の良さをアピール、特色を持たしてオープンスクールの活性化
- ・ 小中一貫校

■ 無関心層へアピールして地域全体で子育てする環境の構築

5/8

検討する際に認識しておくポイント

- ・ 児童生徒の多様性に対応できる教育環境
- ・ 児童生徒にとって公平で良好な教育環境
- ・ 緊急性
- ・ 重要度

※適正規模についての考え方

- 〈教育環境の視点〉
- 〈指導体制の視点〉
- 〈学校運営の視点〉



6/8

答申（案）のイメージについて

○諮問

「見附市における市立小中学校の適正規模・適正配置等の**目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策**」について



○答申

・ **基本的な考え方**

現在の状況をどう考え、将来に向けてどのようにするか

・ **実現に向けた方策**

そのためには、いつごろまでに何をするのか
その際に配慮することは何か

7/8

見附市立学校配置等検討委員会スケジュール

第1回	5/31	現状説明、課題共有、委員会の役割
	6/27	学校視察 （市内学校の老朽化状況、授業の様子）
第2回	6/27	市の取組み、意見交換
第3回	7/29	課題の確認、意見交換①
第4回	9/27	課題の確認、意見交換②
第5回	10月下旬	方向性の検討①
	(11月下旬)	(方向性の検討②)
第6回	1月	答申案検討
第7回	2～3月	教育長へ答申



- ・ 答申案を反映させた**適正配置等方針(案)**、**計画(案)**を教育委員会で作成
- ・ 〈教育委員会会議で協議〉
- ・ **適正配置等方針(案)**、**計画(案)**等を公表 → パブコメ等の実施

8/8

◎ 本日の中心テーマ

諮問理由である、「見附市立小中学校の目指すべき教育環境を整備し、充実した学校教育の実現に資するため」の諮問事項「見附市における市立小中学校の適正規模・適正配置等の目指すべき教育環境に関する基本的な考え方と実現に向けた方策」の検討課題を探る。

具体的には、「現状のどんなことをよし」とするか？」の視点に留意し、各委員が**今後の解決課題として必要だと思うこと**と、
その解決のための方策（アイデア・手立て）について、
作業シート（別紙）を活用し、ファシリテーションによるグループ協議を進める。

<留意点>

各委員の問題意識の所在と、その解決のための方策（アイデア・手立て）が、どちらの校種（小学校・中学校）を意図しているかがわかるように、作業シートに明示する。（付箋色→黄色：中学校、ピンク：小学校）

<検討委員会に託されている諮問理由>

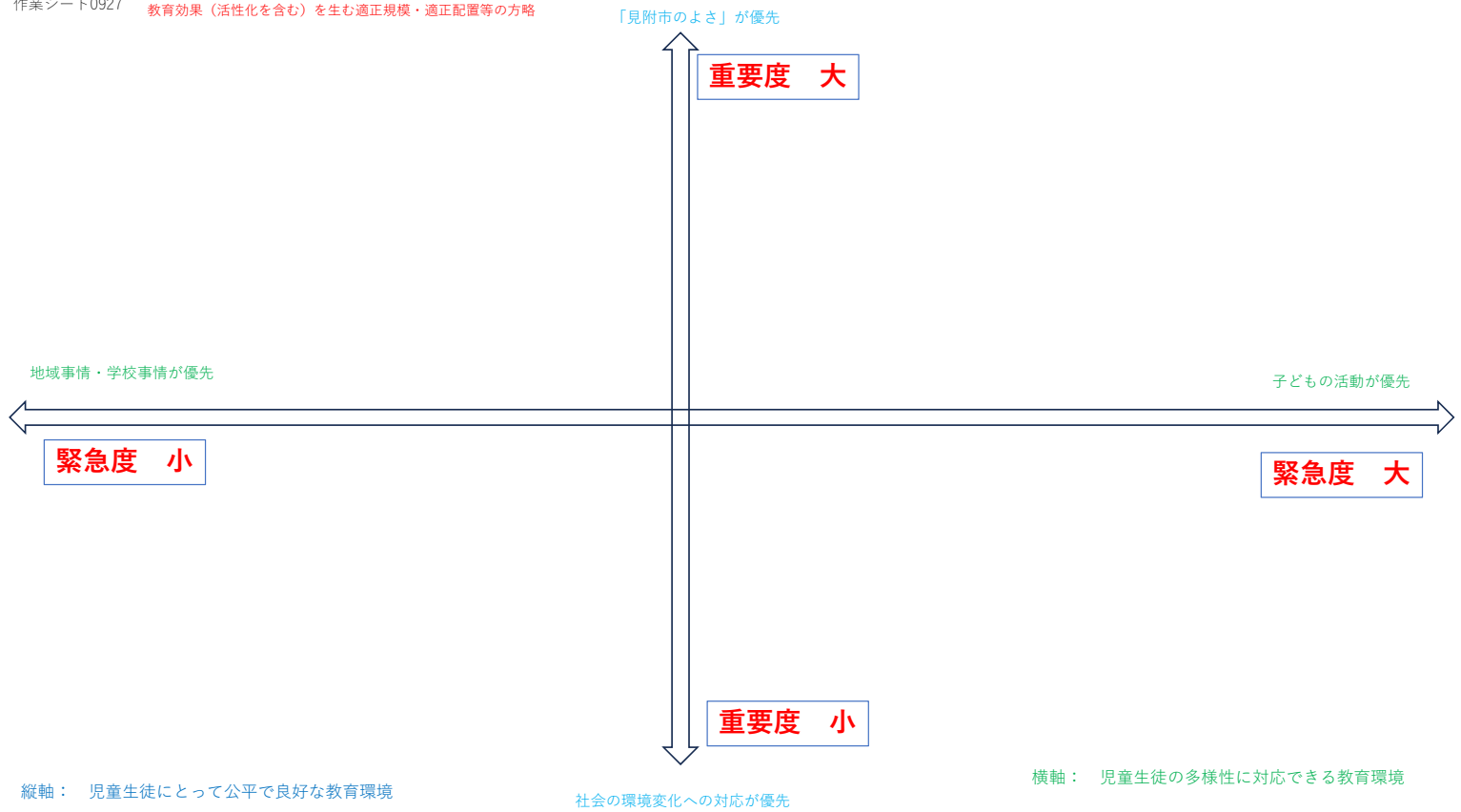
<諮問理由>

市の児童生徒数は、ピーク時である昭和・57・年(1982)度の・6,194・人から、令和・5・年(2023)度では・2,813・人と、およそ・40・年間で半数以下(△54.6%)にまで減少しています。

また今後の年少人口推計は令和・2・年から・10・年間でさらに約・2・割強、30・年間で約・5・割弱の減少という急激な**少子化**が見込まれています。

学校教育では、児童生徒が集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し、切磋琢磨しながら児童生徒一人ひとりが資質、能力を伸ばしていくことが重要であり、その一方で、**児童生徒一人ひとりの多様性に対応できる教育環境づくり**も重要です。

これらの状況を踏まえ、**今後の教育環境の変化等も考慮しながら、教育活動のより一層の活性化を目指し、見附市の子どもたちにとって目指すべき教育環境を実現するため、将来を見据えた市立小中学校の適正規模・適正配置等の考え方と実現に向けた方策**について、答申いただきますようお願い申し上げます。



視点設定A

<横視点> 主体者である児童生徒の、多様性に対応できる教育環境
(地域・学校事情が優先 VS 子どもの活躍優先)

→「教育効果（活性化を含む）を生む適正規模・適正配置等の考え方」を見つける。

<留意点と視座>

適正配置を進めるにあたっては、小規模校は統合を基本に、
大規模校は分離新設や通学区域の変更、増築などで対応することが多い。
ただし、それぞれの学校事情、地域事情により合意形成ができることが必須。

視点設定B

<縦視点> (将来を見据えた) 公教育を行う上で、

児童生徒にとって公平で良好な教育環境 (IT活用、いじめ不登校対策等、今日的教育課題等に対応した構想)

→ (「見附市のよさ」 が優先 VS 地域・学校を含む環境変化が優先)

→ 「教育効果 (活性化を含む) を生む適正規模・適正配置等の考え方」を見つける。

<留意点と視座>

公教育を行う上で、子どもたちにとって公平で良好な教育環境を創ること

＊ 適正規模についての考え方

子どもたちは、ある程度の人数がいて、多様で豊かな人間関係が経験できる活気ある環境の中で切磋琢磨し、未来に向かって互いに成長していくことが望ましい。

また、学校規模によるいろいろなメリット・デメリットを「教育環境」「指導体制」「学校運営」の3つの視点から検討し、子どもたちにとって望ましい教育環境となるように小中学校の適正規模を見直す必要がある。

< 参考 >

< 教育環境の視点 >

・学校内で環境の変化を創り出し、さまざまな経験ができるよう、クラス替えが可能な学校の規模

・子どもたちが競い合いながら成長できる規模、子どもたちも教員も互いの顔がわかり信頼関係をつくれる規模

< 指導体制の視点 >

・教員間で授業づくりの共同研究ができる規模

・中学校では、すべての教科専門の教員が配置できる規模

・子どもと教員が向き合い、個々の子どもをよく理解できる規模

< 学校運営の視点 >

・保護者の負担が過大にならず、教員の出張や研修をサポートできる規模

・特別教室の割り当てが無理なくできる規模

☆ 視点設定C

< 縦・横視点の重要度・緊急度 >

縦横視点に基づく委員各自の考えは、
「どのくらいの重要度（優先度を含む『大⇄小』）があるのか」
「どのくらいの緊急度（優先度を含む『大⇄小』）があるのか」を検討する。

→ 一つ一つの考えの重み付けを図る。

→ 「教育効果（活性化を含む）を生む適正規模・適正配置等の考え方」
を支える根拠を見つける。

グループ協議の進め方 (75 min)

0 各グループの世話役は、各事務局員が担当する。

1 これまでの会や前回のグループ協議を受け、関心をもっていることや提案したいことなど、各自が自分の考えを付箋に書く。
(一枚に一問題意識。) 10min

2 自己紹介と、各自が自分の問題意識の所在を発表し合う。各グループで代表者を決め、進行役となる。
発表し終わった委員から順に、作業シートに付箋を貼る。(縦軸・横軸のどこに位置すると思うかは各自の判断でよい。)
また、各委員の発表内容についての質疑・意見交換も可。 40min

3 各グループのファシリテーターを中心に、付箋の分布状況（傾向性等）を話題に、分類整理します。 20min

4 グループワークの参加感想 (一人1分以内) 5min

＜結果発表＞の進め方（35 min）

＜結果発表＞ 各グループ協議の結果について、グループ間で発表し合い、さらに課題と方策を整理していきましょう。

1 発表者（**グループ代表以外の委員より選出**）による発表。

（発表は各グループ4分以内）

20min

- ・ 発表者はグループ協議を記録した拡大作業シートを提示し、説明する。（提示補助：各事務局関係者）
- ・ **対象校種、課題ととらえたこと、その要因として考えられること、そのための解決の方策（アイデア・手立て）**を骨子として発表する。
- ・ 補足したいこと（留意すべきこと、配慮すべきこと等）がある場合は、各グループ内の委員が補足する。

2 全体質疑と意見交換（時間調整の場合あり）

10min

3 ファシリテーターのふりかえり（遠藤）

5min

2024/10/3

協議Memo用紙（各委員用） 作業シート ＊自由に活用ください
教育効果（活性化を含む）を生む適正規模・適正配置等の方略

「見附市のよさ」が優先

重要度 大

地域事情・学校事情が優先

子どもの活動が優先

緊急度 小

緊急度 大

重要度 小

縦軸： 児童生徒にとって公平で良好な教育環境

社会の環境変化への対応が優先

横軸： 児童生徒の多様性に対応できる教育環境

<構想> 次回（10月＊＊日開催）への見通し

- 第5回は、第3回、第4回でのグループ協議結果を振り返り、今後の**検討課題**を見つけていく。

その1 【重要度・緊急度】の視点を加えた協議結果をもとに、
分類整理の妥当性について意見交換する。

その2 分類整理した内容は、どんな課題として表現できるかを検討する。

その3 それらの課題についての対応策（実現に向けた方策）について意見交換する。

<留意点> 今回は、これまでのグループ協議結果の分類整理の検討にかかわる
意見交換に終始する場合もある。
その場合は、次々回でも意見交換を継続する。